

寫

秘

軍務局長

島公要港部参謀長

ソビエト汽船テレック 船(三五〇。父乗組員全部ソ人)
 昨十六日午七時頃 候角(澎湖島南端)ト虎井岬間
 東側ヲ要港才三返ニ入泊セントモ折柄日海面ヲ航行
 中ノ波設艇内島カ発見報告セルソ以テ直ニ停船ソ
 命ジ要港部ヲ臨檢隊派遣 要兵ト協力取調ソ行
 ヒタルニ船長ノ陳述大要左ノ如シ
 同船ハ「蘇」政府所屬船ニシテ小考ヲ搭載シ黒海ヲ
 御境ニ回航シ途去ル七日「シンガポール」出港昨十六日澎湖水

八一七、
海軍

海軍

横道半葉十三行部紙(本田納)

道 西道北上十番十時比查母時 灯台東北東方白土
 里地島ニ於テ機関故障ソ生ジ且ウ初リ大ナリソ以テ島
 薩ニ遊 泊ノ上修理セントシ日地島ヲ引込テ澎湖島
 ニ向ヒソ所措モる海國ニハ何等モ事ナキ者要港才ニ
 ヲ知ラス又海國ニハ港禁止ノ旨記載セララル以上何レノ港
 灣ニ入港スルニ又差支ナキモノト考ヘ被ク云々
 因ニ同船 難ノ口定タル 機関故障ハ工部部ニテ調査
 ノ結果極メテ難ニシテ全修 難ノ理由トナラス
 取調状況ソ綜合スルニ明クモ不法ノ港ノ企圖モト思
 ルソ以テ和船 及トレテ当港 艦隊ニテ地訴セル
 ニ法レキ日早 泊地(内頂灣) 甚高 雄ニ回航 同地
 法院支部ニ送致セルコトトセリ 當時 風向概シ西風 速
 五米乃至八米 吹テリノ方向 南南西 吹サレ一 米

横道半葉十三行部紙(本田納)

海軍

F-0125

0248

大正

大正 陸

シラカレニ

シラカレニ

シラカレニ

シラカレニ

海軍省ヨリ電

シラカレニ

シラカレニ

シラカレニ

シラカレニ

シラカレニ

シラカレニ

シラカレニ

外務省

シラカレニ 遊難スベリ 殆地ヲ求メ 海軍
 入港禁止及要港ナル 記事ナキ 為同
 地ニ入港セリ 地方ノ 取調ニ 依シハ 概
 聞故障ハ 遊難ノ 要スル 程ニ 至ラ
 ザルニ 依リ 不法入港ト 認メ 十七日 概
 高麗 雄高 尊法院ニ 田航セシメ
 当日ノ 気象 風速 悔波ハ 静穏ノ
 方ナリキ

外務省

F-0125

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

大臣 次官

電信課長

昭和11 一五七六九 平 臺北 十八日後發 8.20 歐

東郷歐亞局長 坂本臺灣外事課長

第二二號 (親展)

八月十六日午後四時頃澎湖島馬公街峙裡南方一公里ノ地點 (エンテ
フ 灣)ニ外國汽船停泊セルヲ要港部布設艦圓島發見シタル旨ノ急報
ニ依リ澎湖島憲兵隊及馬公文廳ニ於テ臨檢シ船長ヲ憲兵隊ニ引致シ
取調フルニ本船ハ蘇聯所屬「テレック」(三、五〇〇噸)號ニシテ
本月七日新嘉坡ヨリ小麥二千七百噸ヲ積載シ浦潮ニ向ケ出港十六日
午前十時頃北島燈臺ヲ距ツル北方二時間程ノ地點ニ於テ機關ニ故障
ヲ生シタル爲引返シ避難入港セル旨申立ツ

外務省

八月十九日
坂本臺灣外事課長
課長(送付)



昭和拾壹年八月拾九日 坂本

「ソ」聯船「テレック」號ニ關スル件

臺灣總督府 坂本外事課長 坂本

加瀬歐亞局第一課長 坂本

馬公附近ニ不時入港セル「ソ」聯船「テレック」號ノ件ニ關シ十八
日在京「ソ」聯邦大使館側ヨリ差當リノ希望トシテ(一)速カニ事件ノ
處理ヲ完結方及(二)事情聽取ノ爲同船船長ト同大使館トノ電話ニ依ル
通話許可方申出デアリタル處(二)ノ許可可能ナリヤ折返シ電報請フ

外務省

F-0125

0250

同船乗組員ハ船長「ダミイラ」外三十五名（内女三）全部蘇聯人ナ
 リ目下取調中ナルモ船舶法違反トシテ事件送致ノ見込ニテ不取敢今
 朝午前七時馬公發同船ヲ高雄ニ廻航セシメタリ

外務省

◎臺灣總督府令第三十號
 明治四十一年府令第五十五號中左ノ通改正
 ス
 昭和十一年四月一日
 臺灣總督 中川 健藏
 澎湖廳管内ノ項ヲ削ル
 附則
 本令ハ昭和十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
 (参照)
 明治四十一年府令第五十五號ハ臺灣國稅
 規則ニ依ル開港指定ノ件ナリ

昭和十一年
 官報

其後船籍ヲ歸其舊事情（昭和十一年版）才四九七員、
 本島ノ開港場ハ明治二十九年二月締結各名ニ對シテ者者ノ通商條約
 ヲ本島ニ適用スルニ際シ之ヲ淡水、基隆、安平、高雄ノ四港ト定メ今
 日空ツテ并ル同時三旧港、鹿港ヲ特別輸出港トシテ支那船舶（限リ）
 出入ヲ許シ翌三十年一月二日以後、台島、梧棲、赤石、東港、馬公ノ六
 港ヲ三十年一月二日下湖口ヲ追加シテ、其後、蘇澳、下湖口、東港カ
 夫々時日ヲ異ニテ開港セシメ茲ニ十餘年ヲ計リ、其間、
 十二月二日港ト格機力鹿止カレ現在ハ後龍、鹿港、東港、馬公、
 港ヲ

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 祕書官

寫送先

昭和11 一五八五〇 略

莫斯科

本省 八月二十日前着

8.21

歐

有田外務大臣

第五九七號

十九日日本官「リトビノフ」ヲ往訪ノ際「リ」ハ十八日來電ニ依レハ
新嘉坡ヨリ浦潮ニ向ケ穀物輸送中ノ蘇聯商船「テレツク」號ハ機關
ニ故障ヲ生シ臺灣馬港ニ避難セルニ日本官憲ヨリ抑留取調ヲ受ケ居
ル趣ナル處當該船長トシテハ澎湖島ノ性質ヲ知ラスシテ已ムナク避
難セシモノト信スルニ依リ日本側ニ於テ救助ヲ與ヘ且釋放スル様配
慮方至急日本政府ヘ電報アリタキ旨述ヘタリ(了)

外務省

F-0125

0254

F-0125

本電要抄務前
へ送付了

行官
第

| |
|------------------------|
| 電 |
| 信 |
| 案 |
| 外 |
| 務 |
| 省 |
| ト同大使館トノ電話ニ依ヒ通話許可方申出テアリ |
| タニ処右(一)ノ許可可能ナリヤ折返シ電報請フ |

| | | |
|-----|--|----------------|
| 電信案 | 電送第 12894 號 | 管主 歐亞局長 |
| | 昭和十一年八月十九日午後一時三十分發 | 主任 歐亞局長 |
| 外務省 | 件 附近 馬公ニ不時入港セルソソ聯船ヲテレックレ号ノ件ニ關シ | 宛 台灣總督府 坂本外事課長 |
| | 十八日在京ソソ聯邦大使館ヨリ(一)取調(加藤) 裁断ノ便宜方及(二)事情聴取ノ爲同船々長 | 發 加瀬政重向才一課長 |
| | 第 六 號 | 記 録 名 件 |

電信課長 第三通

昭和十一年八月十八日起草

19 10

Tokio, le 20 августа 1936

ВЕРБАЛЬНАЯ НОТА.

Из официального сообщения Генерал-Губернаторства Тайван и телеграммы капитана Данилова Посольство Союза Советских Социалистических Республик информировано о задержании японскими морскими властями советского коммерческого судна "Терек", направлявшегося с грузом 2700 тонн пшеницы из порта Николаев на Черном море в город Владивосток и зашедшего 16-го августа с.г. в порт Мако, ввиду неисправности судовых машин. Судно доставлено по приказу морских властей в Такао, капитан и команда подвергнуты длительному допросу.

Объяснения Генерал-Губернаторства Тайван и морских властей о причинах задержания "Терека", сводящиеся к тому, что "Терек" вошел в запретную зону в то время как состояние судовых машин и условия погоды не вынуждали его к этому, Посольство Союза Советских Социалистических Республик считает неосновательными, ибо согласно всех имеющихся в распоряжении Посольства справочников порт Мако известен

В Императорское Министерство
Иностранных Дел
Японии.

懸案

- 2 -

как открытый для коммерческих судов порт, без каких либо ограничений. По сведениям Посольства, о закрытии порта не было опубликовано ни в официальном Правительственном Вестнике "Кампо", ни в порядке официальных уведомлений Морского Министерства или Министерства Иностранных Дел советским органам. Тем более не мог знать о закрытии порта Мако или об особых ограничениях в отношении отдельных зон этого порта капитан коммерческого судна черноморского бассейна, и следовательно, ни о каком умышленном нарушении японских законов капитаном "Терека" не может быть и речи.

Посольство настаивает, ввиду изложенного, на немедленном освобождении названного судна и экипажа его.

Вместе с тем Посольство просит предоставить ему возможность немедленно связаться по радио с капитаном судна.



駐日局長

第一課長

船舶検査課、馬公不許入港

F-0125

0255

口上書(要訳)

在京の聯邦大使館ハ台湾總督府ノ公報
 及ダニロフ船長ヨリノ電報ニ依リ黑海ニコラ
 エラ港ヨリ滿洲ニ向ケ小麥二千七百屯ヲ
 輸送中八月十六日樺太北陸ノ為馬公
 ニ寄港シタルニ日本海軍省憲ニ抑留サ
 レタルトテ知レリ

懸案

外務省

憲ハ、テレク号カ樺太及千島ノ狀態ニ於
 テ之ヲ港ヲ必要トセザレニ不拘禁止地帯
 入りシ矣ヲ蒙リ居ルモソレ大使館ハ右ノ根
 據ナキモノト認ム、大使館ノ為スル諸業ハ
 昔々據レハ馬公ハ商船ニ對シ今亦ノ制限
 ナク開放セシタル港ナルト明白ナリ大使
 館ノ知レル限リニテハ馬公ノ閉鎖ハ日本政府
 官報、海軍省公告若ハ外務省公告ニ

馬公ハ商船
 多ク往來
 外務省ハ
 馬公ノ閉鎖
 官報、海軍省
 公告若ハ外務
 省公告ニ

外務省

F-0125

多岐
七日晚
海軍省
海軍省
海軍省

側梯等へノ通航ニ於テ公表セシ居ラズル況ヤ
黒海低地地方商船々長カ右閉鎖或ハ
特殊制限区域ヲ知リ得サリシハ当然ナリ從
テテレーク号船長カ日本法規ヲ故意ニ
違及ホルルセシニアラサリシヤ謂フヨ後タサルヘシ
上記ニ依リ聯邦大使館ハ日本外務省
ニ至急右船舶及乗組員ヲ釈放セラレン
ニトテ要望シ同時ニラヂカニ依リ至急船

外務省

長ニ連絡スルノ可能ヲ大使館ニ与ヘシレ
トテ懇心死ス

昭和十一年八月二十日

在京ソ聯邦大使館

外務省御中

外務省

F-0125

0258

歐亞局

警高松申第一五七八八號

昭和十一年八月二十日

台湾總督府警務局長石垣倉治

秘

記録件 形 昭 和 十 一 年 八 月 廿 六 日 接 受

昭和十一年八月廿六日接受

門外漢/観項目 9-2

招務省管理局長殿
内務省警保局長殿
外務省東亞局長殿
朝鮮警務局長殿
関東局警務部長殿
南洋總長官殿
警視廳神奈川 福井 兵庫
福岡長崎各府縣長官殿

蘇聯邦汽船テレエク号ノ船泊法違反

ニ関スル件

本月十六日午後四時頃蘇聯邦汽船テレエク号
が不開港場タル管下澎湖總馬公街田頂湾時
裡(馬公要港第三区)ニ無断入港セル件ニ関シテ
ハ當時電報(招務省管理局長貴官ノミ)ニシタル
次第ナルガ當時ノ状況並ニ今日迄ノ經過左記ノ
通りニ有之候條
右通報候也

記

一 船泊ノ状況

国籍 ソヴェトロシア

F-0125

0259

船籍 オデッサ

船名 テレエクス (トモトス)

噸数 總噸数 二一八八・八九噸

登録噸数 一三九九・二八噸

船員 船長 ダニロフ、ギミーター、當三十三名

高級船員 八名

普通船員 二八名

計 三六名

(内女三、全部蘇聯邦人)

積荷 小麦 二六九〇噸

出港地 ニコライエフ (六月二十八日発)

寄港地 シンガポール (八月七日発)

仕向地 浦塩斯德

二、入港ノ状況

右ハ八月七日新嘉坡ヲ出港シ十六日午前四時頃台南州下安平沖ヲ通過シ浦塩斯德ニ向テ澎湖水道ヲ航行中午前十一時十分頃澎湖島北島燈台ヲ離ル約三時間行程ノ地点ニ於テ突然機関部ニ故障ヲ生シ且凡浪モ高シ航行困難ヲ感シタルヲ以テ澎湖島ニ避難入港修理ノ上天候回復ヲ俟ツテ出港スヘク決意シ引返シテ澎湖島島嶼沖ニ投錨セントシタルモ凡浪高ク不可航ナル為メ更ニ八罩島南方ニ投錨ノ豫定ヲ以テ航行中同日午後四時頃島嶼沖ヨリ候角ノ南東一哩半附近ニ於テ折

F-0125

0250

柄高雄ヨリ馬公要港部ニ向ケ取航途由ナリシ馬
公防備隊敷設艇四隻乗組員ニ乗見サレ馬公要
港第三区タル四頂湾時裡ニ投錨シタルモノナリ

三、入港後ノ状況

右通報ニヨリ馬公要港部將校、憲兵、警察官
等協力臨檢ノ結果機関部ノ故障ハ極ク輕微
ニシテ事情已ムヲ得サルモノト認メ難キ状況ニア
リタルヲ以テ直ニ船舶法違反トシテ捜査ヲ為スコ
トニ決シ船長外一名ヲ憲兵隊ニ同行シ船体ハ憲
兵警察ニ於テ嚴重監視スルコトセリ、憲兵隊ニ
於テハ徹宵取調ヲ行ヒ罪狀明白トナリタルヲ以
テ翌十七日午前七時四十分馬公要港部ヨリ將校一

名、兵士六名及憲兵二名附添ヒ監視シ下ニ別紙ノ如
キ意見書ヲ附シ一件書類ト共ニ高雄ニ廻航シ事
件ハ台南地方法院高雄支那檢察官ニ送致サレシ
リ而シテ同日午後五時四十分高雄ニ入港スルマ同
檢察官岩切檢察官ハ直ニ高雄憲兵分駐所員及
高雄警察署員ヲ指揮シ同船内ヲ搜索シ海図ニ
枚航海及機関日誌、寫真機書類等ヲ押收シ午後
八時半頃引揚ケ目下身柄不拘束（船長外一名
高雄市内壽旅館ニ宿泊セシメ憲兵、警察各一名
ニテ監視中）ノ終嚴重取調中ナリ

（十八日ニ至リ無電技師ウアレリア（女）ハ當時ノ風位
凡速波浪ノ状況ニ付取調ヲ受ケタルガ調書ニ署名

ヲ拒否シタル為メ高雄憲兵分駐所ニ由置セリ
四、其他参考事項

馬公要港部ニ於テハ本船ノ航程ヲ以テ昭和九年
末馬公要港第二區ニ入港セル蘇聯邦備船ラシグ
リイフルツク船ノ航程ニ類似ノ点アリ何等カ連絡
アルニアラスヤトテ時節柄嚴重又断ヲ希望スル旨
ノ參謀長談話ヲ祭表レ本件成行ヲ重大視レ居
ルヤニ見受ケラル

又同地在御軍人会方面ニ於テモ本件ノ嚴罰ヲ希
望レ何等カノ策動ニ出ラントスル模様ナルモ未タ具
体的行動無シ

船長ノ経歴及送致意見書寫左ノ如シ

F-0125

0262

経歴概要

一九〇〇年オデッサにて出生シハオヨリ十一才迄出生地ニ於テ小學校通學、十二才ヨリ海員生活ヲ開始シ十八才迄船員見習トシ就職、十八才ヨリオデッサニ於テ高船學校ニ入学、二十六才ニシテ全高船學校卒業、卒業後一旅客船ノ甲板部見習士官トシテ就職、全船ニ於テ四等運転士、三等運転士、二等運転士、一等運転士ト順次昇級シ一九三五年一月二十九日黒海地中海沿岸諸港航路ノ一貨物船ニ現在テレエク船ヨリ以テ上ニ小型ナル船舶ノ船長トシテ就職シ更ニ今年五月十日現在ノテレエク船ニ船長トシテ転船シタルモノニシテ今回ノ航路ハニコライエフヨリ浦塩斯徳ニ至ル船長トシテ初メテ経験シタル航路ナリ

尚本名ソシビエツト政府ノ官吏ニシテ月給トシテ五〇〇ルーブルヲ支給サレ居ルモ従来軍籍等無ク現在郷里オデッサマリイペーブルグ九番地ノ二五番ニ妻、子供(男子)ニ名居住シ居レリト

意見書 (寫)

國籍 ソビエツト

出生地 オデッサ市マルク街九ノニ五

住所 出生地ニ合シ

職業 ソビエツト政府所有船テレエタ船長

ダニーロフギミリーテリ

當三十二年

一 刑事処分起訴猶豫及起訴中止ヲ受ケメル事
ノ有無

無レト申立ツ

一 犯罪察覺ノ原因

馬公防備隊敷設艇田島艇長海軍大尉山下

正男ノ發見通報ニ依ル

一 犯罪事實

被疑者ソビエツト人ダニーロフギミリーテクハソビ
エツト政府所有船テレエタ船(三千五百噸)ノ船
長ニシテ小麥二千七百噸ヲ積載シ黑海ヨリウラ
ジオストツクニ向ヒ航行中レンガポールヲ出港ウラ
ジオストツクニ向フ(基隆經由)途中八月十六日午
前八時頃澎湖水道ヲ通過シ約三時間航行後
即チ午前十一時十分頃機関部ニ故障ヲ生シ且ウ
ネリ相當高クナリ航行困難ヲ感シタリト稱シ
澎湖列島烏炭沖ニ碇泊ヲ決意シ澎湖水道北
端ニ於テ引返シ澎湖猴角沖ニ於テ烏炭沖ニ碇

泊セントセルモ凡波ノ関係上不可ナルヲ知り八草
島南方ニ投錨スル豫定ナリト稱レ南井嶼ニ向テ
航行中ヲ午後四時頃馬公防備隊敷設艇四島
乗組員ニ察見セラレ馬公要港第三区メル四頂湾
ニ投錨スルニ至リタルモノナリ

一、犯罪ノ情状

1. 被疑者ダニロフギニトテクハ機関長ノ言ヲ信シ
機関ノ故障ナリト稱レ避難セリト稱スルモ馬公
要港部工務主任海軍機関少佐近藤龍龍検査
ノ結果同工部職工ニテ十分ニテ修理完成スル
程度ノ故障ニテ追凡ニテ北航シ淡水又ハ基隆ニ
入港スルヲ何レノ方面ヨリ見ルモ有利ト思考セラ

レ澎湖島ニ避難セサルヘカラサル理田ヲ認メ得
サルモノナリ

2. 被疑者ハ澎湖列島ガ日本ノ領土ナルヤ將又支
那ノ領土ナルヤヲ認識セスト稱レ且ツ海面上ニ
不測港タル標示ナキ為メ無断入港支障ナキモノ
ト認メタリト陳述レアリテ其ノ誠意ヲ認メ難
ク且之等認識不足ノ者ヲ高級船員トシテ使用
スルソビエツト政府ノ誠意ヲ疑ハサルヲ得ス
3. テレエク鴉ハ幸ニシテ敷設艇四島ニ依リ察見
セラレタルモ之ヲ四島察見セサルニ於テハ要港深ク
侵入シ要塞要港防備ノ秘密ヲ犯スニ至リタ
ルヤモ凶ラレ且ツ四島ノ指示ニ依リ四頂湾ニ投

錨セルモノナルニ當初ノ目的ヨリレテ不開場タル
澎湖列島内領海内ニ後錨スルハ明ナリレナリ
案スルニ本件ハ船舶法第三條ニ該當スル犯罪ニレテ過
去ヲ顧ミルニ一昨年十二月以降澎湖列島ニ避難ト稱シ
テ不審入港セル外國船ハ前後實ニ六回ニ及ヒ今又此
ノ種事件ノ發生ヲ見タルハ誠ニ遺憾ニシテ何レモ不可
抗カト認メラルモノナキ狀況ナリ
而シテ昭和九年十二月馬公要港第二区ニ入港セルソビエ
ット傭船ラングリーブルンク船ニテレエク船トシ航程
ヲ航行セルモノニシテ此ノ間何等カノ連絡ナキヤラ疑ハサ
ルヲ得ス
加フルニ近時國際法ヲ犯レ澎湖島附近ヲ航行スル外

國船舶ヲ屢々発見レ又最近英國飛行艇ノ大島上空
ヲ飛行セル事實アリ若シ斯ノ如キ事件ヲ寛大ニ置
ケンカ國軍ノ秘密ヲ保護スル能ハサルノミナラス國威ヲ
失墜スル虞ナレトヤス宜シク此種事件ヲ將來絶滅ノ
為メ嚴重ニ分ノ要アリト認ム

昭和十一年八月十七日

澎湖島憲兵分隊

司法警察官陸軍憲兵曹長

竹田竹賀

台南地方法院高雄支那上席檢察官殿

大臣
次官

電信課長

東亞 歐洲 米商 通商 條約 情報 文部 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

分類 門 類 項 目 9-2

昭和11 一五九五八 暗

臺北 本省 八月廿一日夜着

歐

有田外務大臣

坂本臺灣外事課長

第二三號

貴電第六號ニ關シ

加瀬歐亞一課長へ

司法事件トシテ目下折角搜查取調進行中ナルニ付事案ノ公正ヲ期スル爲司法當局ハ外部トノ通話ハ此ノ際差控エ度シトノ意嚮ナルニ付右御含ノ上然ルヘク御取計相成度シ

記録件名 船法違反 係 停航件

外務省

| | | |
|---------------|-----------------------|--------------|
| 電信課長 | 主 管 | 歐亞局長 |
| | 任 主 | 第一課長 |
| 電信課發電係 | 發 有田大臣 | 昭和十一年八月二十日起草 |
| 宛 | 在ソ聯邦 酒匂臨時代理大使 | |
| 件 | テレソクレ号ノ馬公入港ニ關スル件 | 記 録 件 名 |
| 暗 電送第 13035 號 | 昭和 11. 8. 22 日發 (時) 分 | 號 |
| 第一二八五號 | | |
| (分類) | 貴電カ五九七号ニ關シ | |
| 電 信 案 | テレソクレ号ノ船長ハ我方取調ニ対シ同船ハ | |
| 外 務 省 | | |

22 31

F-0125

0257

電信課へ
ゴンマレヲ附セラ
レタシ

七日新嘉坡裝補物向々、未だ輸送中、十六日
午、梯肉ニ故障ヲ生シ且、ウネリ大ナリシヲ
以テ同日午後四時頃馬公街、山時裡南方
一千米ノ地矣、(丹頂、要港カ三又)ニ
遊難セル旨申立、記知事官憲我カハ調査ニ依レハ
梯肉故障ノ程及天候等何レモ申立
ニ相応セサルヲ以テ十七日高雄ニ回航セ

電信案

外務省

嫌疑ニ依リ

シメ目下船舶法違反(不測港地入港)
トモ司法当局ニ於テ、取調審問中ナリ尚馬
後来、シヤンキンニ対シテ、特別刑場タリシガ
公ハ本年台湾總督府令カ三十号ヲ以テ
本年七月一日ヨリ右取扱廢止セラレタリ、本報
六月十六日官報参照)

電信案

外務省

F-0125

0258

船長トノ通話ノ許否ニ付問合セ来リ居ル處
 二十一日中田電ニ接シタルニ依リ適當返事シタ
 ルカ先方ニ於テハ在神戸總領事「クラウゼ」
 カ先及東京大使館通譯「ホビレフ」ヲ先
 ツ台北ニ赴キ貴總督府ト聯絡ヲ取リタル
 上高雄ニ赴カシムルストニ決定シ船便アリ次
 カ二十三日ニモ出發スルヘキ旨申越シタルニ付

電信案
 外務省

(分類)

| | | | | | | | | | | |
|-------------|----------|------|---------------------|---|----------------------------|---|---|---|---|---|
| 電 信 案 | 往電ヲ六号ニ関シ | 電送第 | 13029 | 號 | 主 管 歐 亞 局 長 | | | | | |
| | | 昭和 | 11 | 年 | 8 | 月 | 9 | 日 | 時 | 分 |
| | | 件 | テレグラフ号馬公入港 ニ関スル件 | 宛 | 台湾總督府 坂本外事課長 | | | | | |
| | | 第 | 七 | 號 | | | | | | |
| | | 名件録記 | | | 發 加瀬政要局分課長 有田大甲 | | | | | |
| 外 務 省 | | | | | 昭和十一年八月十一日起草 | | | | | |

電信課長

電信課發電係

22 25

F-0125

0269

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

大臣 次官

電信課長

分類ノ門ノ類ノ項ノ目ノ一ノ二

昭和11 一六〇九六 暗 臺北 廿三日前發 歐
 本省 八月廿三日前着

加瀬歐亞第一課長 坂本臺灣外事課長

(無號) (大至急、極秘)

貴電第七號ニ關シ「テレトク」號馬公入港ニ關スル件)

客年ノ「ジュノウ」號事件以來當方民情ハ相當硬化シ居リ總督府軍部トノ關係未タ必スシモ密着ナラス此ノ際蘇側關係者ノ來臺ハ或ハ著シク民(心)ヲ刺戟セシメ當局モ却テ迷惑ヲ感シ結果面白カラサルヘキカラ懼ル高雄司法當局ヨリ詳細ノ報告當地中央部ニ到着シ居ラサルモ一兩日中ニハ内(容)詳細判明スヘキニ付此ノ際出發ヲ延期セシメラルル方可ナラスヤト存ス右氣付ノ儘貴官極秘ノ御含迄了

外務省

8.25

電信案

外務省

司法官憲ノ手ニテ取調中ナルニ依リ船長トノ面談等詳サレハ本館有無取調中申
 聞ケ置キタリ 右不取敢

F-0125

0278

電信課長



大臣
次官

東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文化
調查
人事
文書
會計
會社
秘書官

寫送先

(分類ノ門ノ類6項0目 9-2)

昭和11 一六二六五 暗

臺北 八月廿六日夜着

歐

有田外務大臣

坂本臺灣外事課長

第二五號 (極秘)

電第二二號ニ關シ

加瀬課長へ

本件ニ關シ憲兵隊其ノ他ノ情報ヲ綜合スルニ「テ」號ハ普通外國船
舶通路タル臺灣海峽ヲ通過セスシテ特ニ澎湖水道ヲ航行セルモノナ
ルカ右航行ニ時間後機關ニ故障ヲ生シ修理スヘク澎湖島ニ避難シタ
リト申立テ居ルモ

一機關ノ故障ハ之カ修理ニ當レル海軍當局ノ意見ニ依レハ「バルブ」

外務省

ヲ締付クル等約二十分位ニテ修理シ得タル程ノ輕微ノモノニシテ
右ハ航行中ニテモ修理可能ナルモノニ拘ラス風位潮流ニ逆ヒ態々
澎湖島ニ引返シタル點
ニ逆航約二十哩ノ所要時六時間ハ其ノ間澎湖島附近ヲ彷徨セルヤノ
疑アリ
三澎湖島ハ我國領土ニシテ且馬公カ軍港ナル事實ハ全然知ラサリシ
旨申立ツル等
假令「テ」號船長カ地中海方面ノ航海ニ從來就航シ居リ極東ニハ今
(同)カ初メテノ航海ナリトスルモ同船長ノ申立ツルコト奇怪ナル
コト頗ル多キヲ以テ司法當局ハ事案ヲ重視シ目下慎重取調中ナリ
部外極秘ノ御含迄

外務省

船舶法違反及保釋案件

F-0125

0273

次臣局長

外發第一六三三號

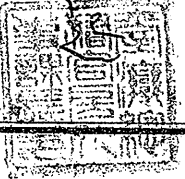
第一號

八月二十九日 瑞

極秘

昭和十一年八月二十六日

臺灣總督官房外事課長坂本龍



加瀬政重司第一課長殿

ソノエツト政府所有船「テレエク」號、船細法
違反ニ関スル件

標記ノ件ニ関シテハ本年八月二十六日附往電ヲ
以テ及御通報置候外別添當地憲兵隊長
報告書字御參考迄ニ及御送付候条御
査閲相成度

臺灣總督府

追テ本件部外極秘トシテ御取扱相成
候標致度爲念中添候也

F-0125

寫

台憲高第七九五號

ソヴエット政府所有船舶船舶法違事
件檢舉ニ関スル件報告「通牒」

昭和十一年八月二十日 台灣憲兵隊長大 芥

臺灣軍司令官 畑 俊 六 殿

國籍 ソヴエット

出生地 オデッサ市アルウ街九ノ二五

在所 同 右

職業 ソヴエット政府所有貨物船

「テレエクレ」船長

臺灣總督府

タニロフ、ガミテリ 當 三十六年

船舶法違反

右頭書ノ違反被疑事件ニ付八月十六日檢舉搜
査ノ上今月十七日身柄ト共ニ一件記録ヲ台南
地方法院高雄支部上席檢察官ニ送致シ
タル狀況左記報告「通牒」ス

左記

一、犯罪發覺ノ原因

馬公防備隊敷設艇團島艇長 海軍大尉
山下正男ノ發見通報ニヨル

二、犯罪事實

被疑者「ソヴエット」人 タニロフ、ガミテリハ

美濃全第 第 紙

F-0125

0205

「シゴット」政府所有貨物船「ラレエク」号（三千五百噸）ノ船長ニシテ小麦二千七百噸ヲ積載シ
 黒海ヨリシラジオストックニ向ヒ航行中シンガポ
 ールニ寄港八月七日午前四時シンガポールヲ
 出港ウラジオストックニ向ク（基隆經由）ヘク八月
 十六日午前八時頃澎湖水道ヲ通過約三時
 間航行後即チ午前十時十分頃機関部ニ故
 障ヲ生シ且ツ疑相當高ク航行困難ヲ感レタ
 リト稱シ澎湖列島烏嶼沖ニ碇泊ヲ決意
 シ澎湖水道北端ヨリ引返シ逆航行烏嶼島
 沖ニ碇泊セントセルモ風波高ク同所ニ碇泊不
 可ナルヲ知リ八罩島南方ニ投錨スル事ナリ
 リト稱シ虎井嶼ニ向ケ航行中午後四時
 頃馬公防備隊敷設艇圓島乗組員ニ発見
 セラレ馬公要港等ニ逃ル圓項傍ニ投錨スルニ
 至レルモノナリ

臺灣總督府

三、犯罪、情状

ハ被疑者タニ「ロフ、ギミ」テリハ機関長ノ言ヲ
 信シ機関ノ故障ニテ避難セリト稱スル
 毛馬公要港部工務主任海軍機関方佐
 近藤龍鑑是ノ結果同工務部職工ニテ
 ニ十分間ニ修理ヲ完成シ得ル種ノ程度
 ノ故障ニテ追風ヲ利シ北航シ淡水又ハ基
 隆ニ入港セントセハ成シ得ヘキ狀況ナリシモ
 ニシテ澎湖島ニ遊難セサルガラサル

F-0125

0275

理由ヲ認メ得ルモノナリ
 子被疑者ハ澎湖列島カ日承領ナルヤ將又支那領
 ナルヤ認識ナカリト稱シ且海圖上ニ不附港
 タル標キナキ為無断入港スルモノ差支ヘナキ
 モト認メタリト陳述シアリヲ其ノ誠意ヲ記
 メ難シ
 3「フレエ」稱ハ國島衆組員発見セサルニ於テ
 ハ要港深ク侵入シ要塞、要港防備ノ機
 密ヲ犯スニ至リタルヤモ圖ラレヌ且國島ノ指
 示ニ依リ内項湾ニ投錨セルモノナルモ當初
 目的ヨリミテ不附港タル澎湖列島領
 海内ニ投錨スルキハ明カナリ
 4當時「コラタ」島附近ニ颱風アリシモノニ対

美濃全郷部誌

F-0125



シテハ北航スルニ從ヒ遠サカレモノニシテ逆風ニ
 向ヒ引返シ艦風ニ近キ澎湖島附近ニ
 避難場所ヲ選定スルカ如キハ當時ノ状況
 ヨリ判断ニ得サル処ナリ

四憲兵処置

澎湖島憲兵分隊ハ今日午後五時頃事件急
 報ニ接スルヤ下士官以下四名ヲ第四駆逐
 艦秋風砲術長山口大尉以下下士官兵十
 名ト共ニ汽艇ニ便乗セシメ午後六時頃現
 場ニ到着直ニ船内ヲ臨檢搜索スルト共ニ船
 長ノ取調ヲナシタル処機関部ニ故障ヲ生シ
 了ル旨申立タルモ該故障ハ航行ニ支障ナ

F-0125

0278

リト認メ得サルノミナラス言動曖昧モ
多クアリ船法第ニ條違反現行犯トシ
テ事件ヲ処置スルニ決シ船長ヲ逮捕ノ上航
海日記海圖ニ及船体其他ヲ証拠品トシ
テ押收シ該船ニハ憲兵ニ名ヲ残置無線電
信室其他船員ノ動靜監視ニ任セン船長
外一名ヲ同行午後十時分隊ニ引致取調
ヲ開始セリ

取調ノ結果澎湖列島カ日本ノ領土タルヲ知ラ
スト供述スル等種々疑問ノ莫アリタルヲ以
テ追求シタルモ機関ノ故障ニヨル避難ノ外
他意ナシト強弁シ且澎湖列島内ニ長時間
碇泊センノ置クハ軍機保護上不利ナラテ

臺灣總督府

同夜直ニ取調ヲ完了八月十七日午前七時
該船ニ憲兵ニ名海軍士官一十名兵六
名ヲ乗込ミ現場出奔高雄ニ回航船舶法
違反事件トシテ一件記録ト夫ニ身柄ヲ臺南地
方法院高雄支部上席檢察官ニ送致セリ
尚副官ヲ高雄ニ急行センノ檢察官ニ諸貴
料ヲ提供シ嚴重處分ノ要アル旨連絡セン
タリ

五所見

一昨年十一月「ソ」聯備船「ラングリブル」ヲ
公要港区域等ニ侵入シテ不法ヲ敢行セルヨリ
此種事件頻年ニ於テ既ニ十件ニ及ヒ現下
國際情勢ノ曰ク逐ク逼迫シ國際謀報

F-0125

概因ノ暗躍愈々激烈ヲ極ムル時皇國ハ々防上
眞ニ苦心ニ堪ヘサル処ナリ

而シテ此種事件ノ續出シテ跡ヲ絶タサルハ從來
之ヲ取扱ヒ余リニ寛大ニ失セルト我國威ヲ輕
視シ彼等特有ノ自負タル白色人種方能ノ思
想トニ因セシムルハアラヌ

本事件亦目下判明セル處ヲ以テ之レハ何等海難
トシテ認クキ理由モナリ且同船乗組員ノ首動
ハ極メテ傲慢無禮ニシテ故意ニ船舶法第三
條ヲ干犯セシメタルト據カナリ故ニ本事件処
理ニ當リテハ慎重審議ニルト共ニ國家國防

ノ安全保衛及皇國ノ威信ヲ宣揚スルノ見地
ニ立脚シテ法ノ規定ニ範圍内ニ於テ最大罰
則ヲ以テ擬律シ再ヒ斯ノ如キ不法ヲ敢ラセサ
ラシムル如キ断平タル処置ヲ景要トスルモノト

臺灣總督府

認ム
六 其他参考事項

1. 船内搜索ノ際寫眞機ニテ榮見セルモ澎湖島
附近ヲ撮影セル形跡ナシ

2. 船員ハ各自防盾面(相當精巧ナルモノ)ヲ所持シ
テ且ツ船内各所ニ新兵器ノ標本及其效
力ヲ表示シ日本國防婦人會ノ射擊會狀
況日本軍裝甲自動車及歩兵部隊ノ演習
演習等ノ寫眞ヲ添付ニアリタリ(了)

榮送先



歐亞局長

第一課

昭和十一年九月貳日 接受

警高秘甲第一六一七一號

昭和十一年八月二十七日

台灣總督府警務局長 石垣 倉治

拓務省 管理局長 殿
外務省 歐亞局長 殿

蘇聯汽船テレエタ號船法違反ニ
關スル件

對號 八月二十日警高秘甲第一五七八八號

首題ニ關シ對號ヲ以テ事件概要通報置候處、高雄支部檢察局ニ於テハ
專案ノ性質上極メテ慎重ナル態度ヲ採リ岩切檢察官係ニテ其後引續キ
取調中ニシテ「テレエタ」號各高級船員ノ外馬公要港部工作部近藤海
軍少佐、馬公要港部所屬敷設艇團島艇長、山下大尉、督府海事課松末

臺灣總督府

行印台高口具江月七年一十第附

記

技師、全高雄出張所長瀬戸口寛一等ニツキ、機關ノ故障狀況、「テレ
エタ」號ニ停船ヲ命シタル位置等ヲ聽取又ハ鑑定セシメツ、アリ事件
ハ數日中ニ起訴、不起訴ノ決定アルモノト認メラル
尙本件ニ關スル一般民情ハ内地人、本島人ヲ通シ最近ノ國際情勢並ニ
沿海州方面ニ於ケル我カ出漁々船ニ對スルソ聯ノ態度等ト對照シ此ノ
際斷乎タル處置ヲ以テ臨ミ我カ國威ヲ示スヘントノ強硬意見多キカ如
キモ事件内容未タ詳細判明セサル爲メ具體的輿論トシテ認ムヘキモノ
無シ

唯事件發生地タル澎湖ニ於テハ八月二十日馬公街公會堂ニ於テ在郷軍
人澎湖聯合分會臨時大會ヲ開催シ國防上本島特ニ澎湖ノ重要性ヲ高揚
シ宣言、決議ヲ爲シ内地並ニ本島内各要路ニ打電シタルカ右ハ本事件
ヲ動機トセルモノト看ルヘク、又在北郷軍、海友會、生産黨事務局ヲ
始メ各右翼方面ニ於テハ事件發生當時ヨリ之カ成行ヲ注視シ新聞記事
ニ徵スルニスバイ行爲歴然タルモノアリ、軍機保護上此ノ際斷乎タル
處分ヲ爲シ以テ此ノ種事件ノ根絶ヲ期スヘシ、該問題ノ經緯如何ニ依

行印台高口具江月七年一十第附

臺灣總督府

F-0125

0282

リテハ軍機擁護上島民運動ヲ起サント材料蒐集ニ努メツ、アリトノ聞
込アルモ未タ具体的ノ運動ナシ。
澎湖ニ於ケル郷軍臨時大會ノ状況左記ノ如ク一應
右通報候也

追テ前報無電技師ゾアレリア(女)ハ八月十八日憲兵隊ニ檢束シタ
ルカ翌十九日解檢束シ現在ハ何レモ不拘束ナリ

記

マ日 時 八月二十日午後七時三十分ヨリ全九時三十分迄

ニ場 所 馬公街公會堂

ニ出席者 帝國在郷軍人澎湖聯合分會長三浦光次外役員、會員七十名

ニ部外參列者 馬公要港部荒木先任參謀外地方人數名

ニ總會ノ狀況

上瀧馬公分會長關係ノ辭ヲ述ヘ一同皇居ヲ遙拜シタル後三浦聯合分
會長上瀧馬公分會長外役員三名交互ニ登壇、去ル十六日要港地帯ニ
入港シタル蘇聯邦船テレエク號ニ關シ軍機擁護ノ必要性ヲ強調シ左

臺灣總督府

行印台高口原江月七年一十第

記宣言、決議文案ニ依リ朗讀贊否ヲ諮リタルニ何レモ滿場一致ヲ以
テ決議採決ヲ爲シ之カ實行方法トシテハ取敢ヘス總理大臣、陸海軍
大臣、帝國在郷軍人會長、台灣總督、台灣軍司令官、帝國在郷軍人
會聯合支部長、全各聯合分會長、台北海軍駐在武官、台北憲兵隊長
澎湖廳長、馬公重砲兵聯隊長、台日、台灣、台南三日刊新聞社、台
灣國防議會理事長、國防強化聯盟宛ニ宣言文、決議文ヲ送付シ、次
テ本月末頃台南ニ於テ開催セラル、豫定ノ帝國在郷軍人南部臨時大
會ニ之ヲ携行強調スルコトニ決定ス

宣言

外暗雲頻リニ低迷シ内動々モスレハ理非ニ迷ヒ、或ハ徒ラニ安キヲ
貪ルモノアリ、時局ハ益々重壓ヲ加ヘ寸時モ偷安ヲ許サマルノ秋吾
人ハ更ニ皇國國防強化ノ必然性ヲ痛感シ、台灣特殊性ト澎湖島ノ重
要性ヲ再認識シ郷軍獨自ノ使命ヲ感銘シ軍機ノ擁護ニ向ツテ勇往邁
進シ以テ其實務ヲ全ウセンコトヲ期ス
敢テ決議ヲ宣言ス

行印台高口原江月七年一十第

臺灣總督府

F-0125

0283

伝言

(分類)

| | | | | |
|-------------|---|---------------------------|------------------------|---------------------------|
| 電 信 業 | 二十一日在京「ソ」大使領事官兼法「テレク」強 事件之旨及「ソ」ヤパン「イ」ア「フ」ツク等「ソ」依「ソ」馬公ハ | 暗 | 電送第 13227 號 | 主 管 歐亞局長 |
| | | 昭和 11 年 8 月 27 日 8 時 0 分發 | 宛 台湾出張所 坂本 多平 課長 | 主 任 第一課長 |
| 外 務 省 | | 第 〇 號 | 件 名 録 記 | 發 東條 英機 外務大臣 有田 大 臣 |

電信課長

電信課發電係

昭和十一年八月二十七日起草

40

臺灣總督府

決 議

一 吾人ハ更ニ台湾官民ノ國防連帶責任觀念ノ向上ヲ強調シ之レガ普
及徹底ヲ期ス

二 吾人ハ國防上台湾ノ重要性ニ鑑ミ特ニ澎湖島防備ノ擴充ヲ期ス

三 吾人ハ又復怪船不法入泊事件ニ鑑ミ之カ根絶ヲ望ミ澎湖島軍機擁
護ノ完壁ヲ期ス

昭和十一年八月二十日

帝國在郷軍人會
澎湖聯合分會大會

行印會商口用江月七年一十國民

F-0125

0284

南港場トナリ居リ又台地ノ南端ニシテ此ノ七月
 一日ヨリニテ船長カ台地ノ南港場ナルヲ知ラサレハ
 無理モナク且又為日ハ平儀ニシテ汽鐘ノ故障ヲ
 生シタル為メ入港セルモノナレハ連日船長以下船員
 及船体其解放方盡力ヲ得タシト申セテタリ依テ
 前記「イノア、ブツク」等ハ「オフイシアル」モノニ非入現
 南港場クルトト、向趣ナリ又現地官憲ヨリノ報告

電信案

外務省

依レハ為日格別天候ニ悪クナク汽鐘ノ故障モ
 輕微ナリト由ニシテ船員ノ自檢ハ司法なるノ手ニ依リ
 整理中ニテ此方為るカ故意ニ事件ノ結果ノ處
 延スルカ如キコトハ致ヘラレシレキ事ニ依リ暫ク待タ
 レタシト申渡シ置キタルカ更ニ二十七日迄是等事官
 事訪シ水屋人民安否部ガ「テレク」等ヨリ接マセシ
 「ラカオ」通信ニ依リハ船員ハ虐待ヲ受ケ又食料モ

電信案

外務省

F-0125

0285

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 祕書官

寫送先

昭和11 一六四七一 暗

臺北 八月廿九日後着

9.1

歐

有田外務大臣

阪本臺灣外事課長

第二六號

貴電第一〇號ニ關シ

東郷歐亞局長へ左ノ通

本件概要ハ加瀬課長宛拙電ノ通ナル處昨廿八日蘇聯總領事本官來訪ノ上(一)總督トノ面會(二)高雄ニ赴キ事情調査スルト共ニ船長トノ面會方要求アリタリ依テ(一)ニ對シテハ本廿九日總督面會セリ(二)ニ對シテハ目下司法當局ニ於テ公正ニ取調中ニ付高雄ニ赴クモ無款ナルヘク尙船長トノ面會ハ司法官憲ニ於テ希望セサル旨答ヘタリ

外務省

貴電船員虐待云々ハアリ得ヘカラサルコトニシテ不拘束ノ儘旅館ニ宿泊セシメ訊問シツツアルモノニシテ先方ノ申出ハ不可解ナリ

外務省

F-0125

0287

電信課長

大臣
次官

東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文化
調查
人事
文書
會計
秘書官

寫送先

昭和11

一六四八六 暗

台北 廿九日後發
本省 八月廿九日夜着

歐

有田外務大臣

第二七號ノ一

往電第二六號ニ關シ

東郷歐亞局長へ左ノ通

本官「クラウゼ」總領事ト面談ノ概要ハ冒頭往電ノ通ナルカ「ク」ハ折角渡合シタルニ船長トノ面談モ出來ス且事件ノ内(容)モ承知スルコト不可能ナルハ遺憾千萬ナリトテ執拗ニ要求スルヲ以テ目下事件ハ尙捜査中ニシテ右捜査ノ秘密ノ保持上内容ハ關係官憲以外窺知不可能ナル所ニシテ若シ起訴ニ至ラハ事實ハ公表セラルヘク又之

外務省

ニ件ヲ裁判モ公開セララルヘキモノナリ司法權ノ發動ハ極メテ嚴正公平ナルニ付暫ク之ニ信賴シテ然ルヘキ旨ヲ說示シタリ
「ク」ハ渡合後本日迄ノ經過ヲ在京大使宛通報シ請訓スル旨申述ヘ居レルニ付大使館側ニ對シ懇篤ナル御說示御取計相煩度シ尙「ク」ハ本問題ヲ地方的問題トシテ圓滿解決ヲ希望致シ(續ク)

外務省

F-0125

0288

大臣
次官

電信課長

東亞 歐洲 米商 條約 情報 文化 調查 人事 會計 秘書官

寫送先

昭和11 一六四九二 暗 台北 廿九日後發 本省 八月三十日前着 歐

有田外務大臣 坂本台灣外事課長

第二七號ノ二

國際的政治問題化スルヲ好マストテ蘇聯邦領内ノ本邦船問題及蘇聯邦國內輿論ノ反響等ニ言及セルヲ以テ本官ヨリ行政問題ナルニ於テハ如何様ニモ盡力致スヘク又地方的且圓滿解決モ同感ナルカ司法問題ニ行政府ノ干涉ヲ許ササルハ大使館ニ於テモ御了解ノ行ク筈ナレハ右篤ト大使ニ報告セラレテハ如何ト應酬シ貴總領事ノ滞在永引クニ於テハ外間ノ誤解ヲ招來シ却テ結果面白カラサルヘキ旨ヲ申聞ケ置キタリ(了)

外務省

大臣
次官

電信課長

東亞 歐洲 米商 條約 情報 文化 調查 人事 會計 秘書官

寫送先

昭和11 一六四九一 暗 台北 廿九日後發 本省 八月三十日前着 9.1 歐

有田外務大臣 坂本台灣外事課長

第二八號

東郷歐亞局長へ左ノ通

「テレック」號乗組員ノ生活状態ニ關シ「クラウゼ」總領事ヨリ本官ニ問合ノ次第アリタルニ付當該官憲ニ照會致シタル處左ノ通り回答アリタルニ付何等御參考迄通報申上ク右ノ中「ク」ニハ括弧内ノミヲ傳達)シ置キタルニ付此ノ點御含置相成度シ
(船長ノミ高雄壽旅館ニ宿泊セシメアリテ食事ハ當人希望ノモノヲ旅館ニ賄ハシメ居レリ)散步ハ旅館庭園内ニ制限シ檢察局トノ

外務省

F-0125

0289

極秘



次官

歐亞局長

第一課長

昭和十一年八月二十九日

臺灣總督官房外事課長 坂本 龍

歐亞局 第一課 長 殿



外發第一、六六五號

蘇聯「テレーク」號ノ船舶法違反事件ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ別紙ハ當地海軍側ノ本件ニ對スル態度ノ一端トシテ御
參考迄御送付申上候間御含願上候

行印會商口風江月七年一十和日

臺灣總督府

臺灣總督府

往復ハ自動車ニ搭乘セシメアリ（現在健康ハ極メテ良好ナリ）「之
トノ面會ヲ待チ居リ事件ニ付テハ左シタル關心ヲ持チ居ラス態度ハ
横柄ナリ

（船長以外ノ乗組員全員ハ「テ」號内ニアリ）外部トノ交通ハ之ヲ
禁止シ居リ若干反抗的氣分アリ（船舶内ニ於テハ一等運轉士ナキ爲
二等運轉士指揮ニ當リツツアリ食料ハ更ニ十七日分位ヲ所藏シ居リ
現在迄ノ所病人ハ一人モナク健康状態可良ナリ）一般乗組員ハ所持
金ナキモ船長ハ相當額所持シ居ルモノノ如シ因ニ船長旅館宿泊料ハ
一日八圓ヲ要ス又繫船料ハ支拂ヲ要ス（了）

外務省

F-0125

0298



馬要機密第三〇號ノ六四

昭和十一年八月十七日

馬公要港部參謀長

高雄地方法院支部長殿
同首席檢察官殿

拜 啓 酷暑ノ折柄愈々御勇健ノ段賀上候
扱而今設蘇國汽船「テレーク」號ノ船舶法違反事件ニ關シテハ既ニ大
様御承知ノ事ト存候處當地ニ於ケル取調ノ結果種々容疑ノ點有之極メ
テ悪性ノモノト推斷セサルヲ得サル狀況ニ御座候
繼テ一昨年十二月以降當澎湖列島ニ避難ト稱シテ不法入港セル外國船
舶既ニ五隻ニ及ヒ今亦斯ル不詳事件ノ發生ヲ見タルハ國防上甚タ遺憾
トスル所ニ有之今後此ノ種事件ノ絶滅ヲ期スルニハ此ノ際周到且斷乎

臺灣總督府

タル對策ヲ緊要ト存シ候現在此ノ種事件ノ防止對策ニ關シテハ制度法
規上又ハ施設上不備遺憾ノ點多々有之可キモ如斯同種事件ノ繰返サル
ル所以ノモノハ畢竟スルニ從來帝國ノ不法侵入船舶ニ對スル處分ノ餘
リニ寛大ナリシニ依ルコト甚大ナルヘシト愚考セラレ候
特ニ今回ノ事件ハ最モ悪性ニシテ情狀酌量ノ餘地ナキモノト認メラレ
候就テハ御取調ニ對スル御參考トシテ別紙當部ノ所見貴官迄ニ供覽仕
リ候條御高覽下サレ度切望致候

本件寫送付先

- 臺北高等法院長 鳳山海軍無線電信所長
- 臺南地方法院長 臺北在勤海軍武官
- 臺北高等法院檢察官長
- 臺南地方法院檢察官長

F-0125

「テレーク」號取調ニ對スル要港部所見

「テレーク」號ノ取調ハ時間ノ餘裕少ナカリシ爲不徹底ノ點多々存スルモ概略調査ノ結果本件カ明カニ計畫的ニ企圖セラレタリト認メ得ル事項左ノ如シ

- 一、船長竝ニ機關長ハ機關ノ故障ヲ生シタル際當時ノ天候ニ於テハ島影ニ避泊シ修理ヲ要スルモノト認メ澎湖島ニ引返シタル旨陳述シ居ルモ要港部工作部掛官實地檢分ノ結果該故障ハ一通リノ機關取扱ノ經驗ヲ有スル者ニ於テハ航行ノ儘ニテ短時間（五分カ十分位）ニ修復シ得ルモノニシテ故障ト稱スル程度ノモノニアラスル輕易ナル故障ヲ以テ避難ノ口實トスルハ詭辯モ甚シキモノトセサルヲ得ス況ヤ故意ニ故障ヲ裝ヒタル嫌疑濃厚ナルニ於テチヤ
- 二、假ニ一步ヲ譲リ機關修理ノ爲長時間機械ノ停止ヲ必要ナリシトスルモ當時ノ天候ニ於テハ（海軍ノ常識ヲ以テスレバ）漂泊ノ儘之ヲ行フコト易々タルモノト認メサルヲ得ス

臺灣總督府

「テ」號ヲ最初ニ發見セル敷設艇圓島ハ耐波性極メテ貧弱ナル四百噸級ノ老朽艇ニ拘ラス同日午前高雄ヲ出港シ同一海面ヲ容易ニ航過セルニ鑑ミルモ三千五百噸級ノ巨船カ風力五、六米「ウネリ」一米程度ニテ漂泊修理不可能ナリトハ絕對ニ認ムル能ハス

三、更ニ一步ヲ譲リ機關修理ノ爲一時避泊ヲ要シタリトスルモ六時間以上風濤ニ逆航引返シタル船長ノ處置ハ甚タ不可解ナリ當時ノ狀況ニ於テハ當然基隆又ハ淡水ニ直行ノ上修理ヲ行フヘキモノナリ

四、船長ハ海圖ニ入港禁止ノ記事ナキ限り何レノ外國港灣ニ入港スルモ差支ナキモノト思惟セリト陳述セルモ海員生活二十五年ノ經驗ヲ有スル船長及多數ノ幹部中不開港ノ意義ヲ解スル者ナシトハ到底信スル能ハス彼ノ「カムチヤツカ」領海ニ避難セル日本漁船カ「ソ」國官憲ノ爲苛酷ナル處分ヲ受ケツツアルニ鑑ミルモ一層此ノ感ヲ深クスル次第ナリ

五、圓島艇長カ確認セル午後四時頃ノ「テ」號ノ船位ハ澎湖島南部巨岸約一、五哩ナルニ拘ラス船長ハ三哩以上（領海外）沖合ヲ航行セ

リト稱ス又最初ハ要港第三區内虎井嶼北側ニ避泊ノ意志ヲ有シタリト公言セシニ拘ラス後ニ至リ前言ヲ翻シ八罩島北側ニ向ヘル旨陳述セリ如斯船長ノ答辯ニハ彼此矛盾セルモノ多ク誠意ノ認ムヘキモノナシ

六、船長ハ當地憲兵分隊ニ於テ露語通譯ヲ附シ聴取セル調書ニ署名セシメントセジニ強硬ニ之ヲ拒否シタル爲止ムヲ得ス高雄ニ於テ手續ヲトルコトトセリ

要之

被告カ如何ナル眞意ヲ以テ入港ヲ企圖セシヤハ如上ノ事情ニ徴スルニ既ニ明カナリ本船ハ昭和九年十二月一日馬公要港ニ侵入セル英商船「ラングレイブルツク」(露傭船)ト同航路同一任務ノ貨物船ニシテ審議ノ結果不幸ニシテ彼等ノ「スパイ」的行爲ノ確證ヲ得サル場合ニ於テモ「スパイ」ヲナスモノハ恐ラク其ノ確證ヲ殘スカ如キ愚ヲ演セサルベシ)彼等カ國際「スパイ」ノ一味ナルヘキハ信シテ疑ハサル所ナリ斯ル明白ナル犯行ニ對シテハ須ク法規ノ許ス範圍ニ於テ極刑ヲ

臺灣總督府

課シ軍機保護ノ萬全ヲ期スルト共ニ帝國ノ威信ヲ中外ニ宣揚スルコト極メテ肝要ナリト信ス

(一終)

馬工機密第二一七號

昭和十一年八月十七日

近藤馬公要港部工作部工務主任

和田馬公要港部司令官殿

蘇聯商船「テレーク」號主機機械検査ノ件報告

一、検査ノ状況

昭和十一年八月十六日二二五技手、職工（組立工組長）各一名ヲ伴ヒ右船主機機械高壓填座部検査スルニ吸 捧ニハ燒損ノ跡ナク其ノ他異狀ヲ認メス依テ試運轉セシメタルニ同部ヨリ稍々多量ノ蒸氣及 疏水噴出セリ

二、處 置

組長ヲシテ填座締付母螺ヲ當ラシムルニ甚シク弛緩セルヲ知リ小量

臺灣總督府

宛輕ク増締後試運轉ヲ反復スルコト三回（約三耗位増締セリ残り締 代約六耗）ニテ完全ニ蒸氣ノ噴出ヲ止ムルヲ得タリ調整完了二三五

五 依テ乗船監視中ノ憲兵ニ主機機械ハ現状通りニナシ置ク様命シテ下船 セリ

三、所 見

試運轉ノ成績ノミニテハ確信シ得サルモ大體右調整ヲ以テ不安ナク 運轉シ得ルモノト認ム機械ノ習性ヲ知ラサル爲特ニ慎重ナル取扱ヲ ナシ調整ニ約二十分ヲ費シタルモ同船乗員ナラハ運轉中ニテモ五分 乃至十分ヲ以テ増締シ得ヘク故障ト稱スヘキ程度ニアラズ

四、備 考

イ、機關長ニ「エンヂニヤー」トシテ何年ノ經驗アルカ資問セルモ 要領ヲ得ス

ロ、機關長ハ小官ニ對シ「エンヂニヤー」トシテ何年ノ經驗アルカ資問セルヲ以テ 「然リ」ト答ヘ置キタリ

ハ、憲兵ニハ船ノ幹部ノ前ニテ重要ナル會話ヲナササル様命シ置キ
タリ

(終)

臺灣總督府

F-0125

0295

歐亞局

普通第二九一號

昭和十一年八月二十九日

在浦潮斯德

總領事 杉下裕次



外務大臣 有田八郎 殿

蘇聯邦汽船抑留事件ニ關スル件

本月二十六日附赤旗紙ハ二十三日東京發「タツス」報トシテ蘇聯邦貨物船「テレク」號(三千五百噸)カ「ニコラエフ」港ヨリ小麥ヲ積載シテ浦潮ニ向フ途中十六日機關ノ故障ノ爲馬公ニ入港日本海軍々憲ノ爲メ抑留セラレ臺灣高麗港ニ廻航セラレタル旨報道シ居ル處尙同報道ハ日本外務省ハ在東京蘇聯邦大使館ニ對シ「テレク」號ノ抑留ハ不開港場入港ノ廉ニ依ル旨通報シタルカ同大使館ハ馬公ハ日本ノ不開港場ノ「リスト」ニ記載ナシトノ理由ヲ以テ速ニ釋放方外

在浦潮日本帝國總領事館

昭和十一年九月四日 接受

務省ニ公文ヲ以テ申入レタリト述ヘ居レリ而シテ二十八日ノ赤旗紙ハ「テレク」號船長及船員ノ一部カ拘禁セラレ船艙ハ開披セラレタルノミナラス日本官憲ハ船員ニ對シ暴行ヲ加ヘ居ル旨當地極東船舶監理部ニ入報アリタル趣ノ「タツス」報ヲ掲載セリ

本信寫送付先 在「ソヴィエト」聯邦代理大使

在浦潮日本帝國總領事館

F-0125

0296

電信寫

子
際
一
寫
字

昭和11 一六五四二 平

臺南 卅日後發
本省 八月卅日夜着

秘

有田外務大臣

帝國在郷軍人会臺南、高雄、花蓮港、
臺東、澎湖各聯合分會

(同文)

本日臺南支部下分會長會議ニ際シ吾人ハ左記澎湖聯合大會ノ決議ヲ
支持ス速ニ右決議ノ目的達成ニ御努力ヲ切望ス

一吾人ハ更ニ臺灣官民ノ國防連帶責任觀念ノ向上ヲ強調シ之カ普及

徹底ヲ期ス

ニ吾人ハ國防上臺灣ノ重要性ニ鑑ミ特ニ澎湖島防備ノ擴充ヲ期ス

三吾人ハ又復怪船不法入泊事件ニ鑑ミ之カ根絶ヲ望ミ澎湖島軍機擁

護ノ完璧ヲ期ス

次官 保



歐亞局長

第一級長

昭和十一年八月三十一日

臺灣總督官房外事課長 坂本 龍

外務省歐亞局第一課長殿

外發第一、六七五號

外事課長蘇聯總領事對談要領送付ノ件

標記印刷物貴官御參考迄送付候條御査閱相成度候也



臺灣總督府

臺灣總督府

昭和十一年八月三十一日



F-0125

0298

外事課長蘇聯總領事對談要領

八月二十八日午前十時在神戸ソビエツト總領事クラウゼ在東京蘇聯大使館通譯ボビレフヲ帶同外事課長ヲ訪問シ(市來事務官陪席)(通譯ヲ通シ會談約二時間)來臺ノ挨拶ヲ述ベ

當臺灣ハ神戸總領事館ノ管轄區域内ニモアリ在京大使ヨリ「テレック」號問題ニ付事情ノ取調べ及ビ解決促進方ノ命ヲ受ケ來臺セリト冒頭シ事態ハ今日如何ナル狀況ニアルヤヲ質問ス

右ニ對シ外事課長ハ

「テレック」號ハ八月十六日馬公要港區域ニ進入シ容疑ノ點多有リシニヨリ目下司法部ニ於テ取調べ中ナリト述ブ

蘇聯總領事ハ

馬公ガ不開港場トナリタルハ七月以來ノ事ニシテ今日迄餘日モ無力リシ事ニ付キ船長ハ未ダ此ノ事情ヲ知ラザリシヤニ察セラルルトテ本年六月十六日官報告示寫ヲ提示セリ

臺灣總督府

依テ外事課長ハ

馬公ハ從來ト雖モ普通ノ開港場ニ非ラズ戎克貿易ノミニ許サレタルモノニシテ右ハ嚴ニ明治四十二年以來公布施行サレ來レリ然モ特種開港場モ七月以來ハ廢止サレタルコト御提示ノ通ナリ苟モ世界ノ航海ニ從事スルモノニシテ馬公ノ不開港場ナルコトヲ知ラザルモノ無カルベク法ノ不知ハ許サルベキモノニ非ラズ船長ノ責任ハ免レザルベキハ當然ナルコト位ハ貴領事モ御承知ノハズナルベシト輕ク擲揄シ

次テ御承知ノ通日本ニ於テハ司法制度ト行政制度トハ判然劃別シ苟モ司法權ノ發動ノ範圍内ニ入リタル事項ニ就テハ行政府ニ於テ干與シ難シトテ日本ノ法制ニ就テ續續説明セリ

右ニ對シ總領事ハ折角大使ノ命ヲ受ケ來臺セルニ船長トモ面會シ得ズシテ歸任スルコトハ甚ダ遺憾ニシテ大使ニ對シ面立難キ次第ナリトテ面會ニ就テノ斡旋方ヲ極力希望セリ
外事課長ハ

既ニ説明ノ通り司法部ノ捜査取調中ノ事項ニ付内外人ニ不拘右ハ不
可能ナルベク如何ニ行政當局タル我々ガ盡力スルモ司法當局ハ之レ
ヲ好マザルベシ今日船長ハ拘束ヲ受ケズシテ日本旅館ニ宿泊セシメ
ラレツツアルハ當局ノ好意ニ依ルモノナルベク強テ面會セラレント
スレバ司法部ハ斷乎トシテ正式ノ手續ニ出ヅベシト思考セラルト説
明セリ

然ルニ總領事ハ高雄旅行ノ場合適當官憲ニ御紹介願ハレ間敷哉ト問ヘ
ルニ對シ
外事課長ハ
高雄ニ赴クモ當地ト同様ノ結果トナルベク假令州知事其ノ他ノ向ニ
紹介スルモ行政當局トシテハ如何ントモスベカラザルベシト答ヘタ
ルニ依リ

總領事ハ著シク當惑失望シ
然ラバ事件ハ何時頃迄ニ解結スベキ見込ナリヤト問ヘリ
外事課長ハ

臺灣總督府

司法部ノ問題ニシテ何人ト雖モ見立タザルベシ尙司法部ト雖モ取調ノ
進行ニ依リ次カラ次ト調査ノ必要有ルコトモアルベク見込タタザル
ベシ
總領事ハ取調ニ際シ言語ノ疏通如何ト問ヘルニ依リ必要ニ應ジテハ露
西亞語ニ通ズル日本人通譯ヲ内聽ヨリ呼寄セルコトモアルベク目下其
ノ手續中ナリト聞クト外事課長ハ答ヘタリ
尙總領事ハ

本件解決ノ長引ク事ハ蘇聯國內ノ輿論ヲ刺戟又ハ蘇聯内ニ於ケル日
本船問題等ニモ影響シ面白カラザルベキニ付國際問題トナラザル様
地方的ニ圓滿解決シ度ク御盡力ヲ請フ旨ヲ縷述シタリ
依テ外事課長ハ

行政當局間ノ所謂外交交渉ナラバ如何様ニモ御盡力出來得ベキモ事
司法問題ナレバ事理明白ノ事ト思考ス
尙貴官ハ國際法上領事ノ職權トシテ問題ノ内容ヲ承知シ船長ニ面會
スルヲ得ルヤノ口吻ヲ洩サルルモ余ハ然解セズ右ヲ強テ主

F-0125

0300

張セラ煖ルルコトハ司法權ニ對スル干涉トナリ延テ我ガ主權ヲ侵害
セラルルコトトナルモノトモ解セラレ此ノ事理ハ大使館ニ於テモ御
了解ノ付クコトナルベク大使ヨリ正式ニ帝國政府ニ交渉セラレズシ
テ現地ニ來リ秘密保持ヲ要スル司法部捜査權内ノ事項ニ付テ種々希
望申込入レラレルモ實ハ當初ヨリ不能ノ事ヲ目的トシテ來臺セラレ
タリト言ハザルヲ得ズ又事件ノ圓滿解決ヲ云々セラレルモ船長ノ申
立ニハ多々奇怪ノ點アリ我々トシテハ判決ニ俟ツノ外無シ
兎ニ角折角來臺ノ貴官ノ御立場モサルコト乍ラ大使ニ對シ當方ノ立
場篤ト御説明有ル様致シ度シト述ベタリ

尙總領事ハ船長トノ面會謝絶ハ總督府ノ意思ナリヤ司法當局ノ意思ナ
リヤ大使ニ報告ノ都合モアルニ付正式ノ回答ヲ得度シト述ベタルニ依
リ外事課長ハ後刻司法當局ノ意向ヲ聽キ正式ニ回答スベシト答ヘ午後
ニ至リ「司法當局ハ船長トノ面會ヲ希望セザル」旨正式ニ回答セリ
尙又總督ヘノ面會幹旋ヲ求メタルニ對シ外事課長ハ普通ノ場合ナラバ
兎モ角「テレク」號ガ軍港ニ進入シ世間ヲ騷シ居ル今日總督ニ面會

臺灣總督府

セラルルコトハデリケートノ事柄ト思ハルルニ付如何カト存ズト答ヘ
タル處 右ハ總督自身ニ於テ希望セラレザル意ナリヤ或ハ外事課長ニ
於テ面會ヲ謝絶セラレル意ナリヤ自分ハ特ニ大使ヨリ其ノ敬意ヲ傳ヘ
ルコトヲ命ゼラレ居リ且自己ノ管轄區域内ニ來リテ其ノ行政ノ長官ニ
敬意ヲ表シ得ザルト有リテハ自己ノ面目モ立タズ之亦大使ニ報告ノ要
アルニ付確答ヲ得度シト謂ヘルニ依リ外事課長ハ然ク改マリタル意味
ニ非ズ自己ノ意見ヲ述ベタルニ過ギズ大使ニ報告セラレルコトハ何等
差支無シ尤モ貴官ノ名刺並ニ大使ノ傳言ハ總督ニ取次ギ貴官ノ意向ヲ
モ御傳ヘシテ何分ノ御返事スベシト答ヘ八月三十日午前十時總督訪問
ノ事ニ取り運ベリ

更ニ外事課長ハ事件ニ關係無キ限り船長ト貴官ノ連絡ニ付テハ喜ンデ
御幹旋スベシト述ベタルニ對シ總領事ハ船長其ノ他ノ健康狀態及生活
狀況ヲ承知シ度シト申出アリ關係當局ト打合ノ上八月二十九日^{後電}刺紙ノ
通回答シ置キタリ
越エテ八月三十日總領事ハ通譯^{レフ}ボビ^{レフ}帶同總督ヲ訪問シ儀禮的挨拶ヲ

F-0125

030

述べ可成速ニ事件ノ解決方ヲ希望シ外事課長ニ對スルト大体同様ノ申
出ヲ簡單ニ述ベタルニ依リ總督モ輕ク之ヲ扱ラヒ神聖ナル司法部ノ措
置ヲ信賴スベキ旨ヲ説示シ會談三十分ニシテ辭去セリ

臺灣總督府

F-0125

0302

全篇三通

電信課長

電信課發電係

管主 歐亞局長

主任 第一課長

昭和十一年九月二日起草

石原

石原

2 25

(分類)

| | | |
|------------------|----------------------|-------------------------------|
| 暗 電送第 13474 號 | 昭和十一年九月二日 午前 5時40分發 | |
| | 件 「テレク」号船員ニ食糧品供給件 | 宛 台灣總督府 坂本外事課長 |
| 第一二號 | 名件錄記 | 發 有田 木 矩 加藤 政 重 才 一 課 長 |

電信案

外務省

二日在京「ソ」大使館より莫斯科当局から「テレク」号を
 接受せる電信ニ依りて乘組員ニ現金拂う要あり

| | |
|--|-----|
| 電信案 | 外務省 |
| 此れ為食糧品等ノ入手ニ困難ヲ感シ居ルニ付 「ソ」ヲシテ總領事ヲシテ同船ニ生活必需品ヲ供 給セシテ度キニ依リ右許可方外務省ノ口添ヲ 得度ニト申出下リ然レ可ク御取計ヲ請フ | |

F-0125

0305

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 祕書官

寫送先

昭和11 一六八四六 暗

臺北

九月三日 後發

9.4

歐

堀内外務次官

坂本臺灣外事課長

第二九號

貴電第一一號及第一二號ニ關シ

船員ノ状態等ハ往電ノ通ナル處貴電ニ依リ更ニ憲兵隊ニ於テ調査シタル結果左ノ通

(一)、所持金ノ件

入港當時船長ハ一千圓所持シ居リタルカ「ブイ」繫留料、岸壁使用料ニ百二十圓旅館宿泊料ニ百二十圓ヲ支拂ヒ殘額七百六十圓ヲ所持ス他ノ乗組員ハ所持金ナシ

外務省

(一)、食料ノ件

主副食物共今後十日分ヲ有ス

(二)、飲料水ノ件

現有量一噸半、一日半噸宛使用シツツアリ(過日來雨水ヲ貯溜スル設備ヲ爲シツツアリ)

(三)、石炭ノ件

百六十噸ヲ有ス一日平均三噸半ヲ費消シツツアリ火ハ消シ居ラス右ハ當地滯在中ノ「クラウゼ」ニモ通報済ナリ

尙昨二日貴電第一二號接到前「クラウゼ」ヨリ「テ」號へ三百圓送金方依頼越ノ次第アリタルニ付送金取計ヒ置キタリ右爲念(了)

外務省

F-0125

0306

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 祕書官

寫送先

昭和11 一六八四三

暗

臺北 本省

九月三日 後發 夜着

9.8

歐

有田外務大臣

坂本臺灣外事課長

第三〇號

加瀬歐亞一課長へ左ノ通

「テ」號乘組員其ノ後ノ狀況ハ次官宛往電第二九號ノ通ニシテ之ヲ
慮待云々ハ當方ヲ全ク誣フルモノナル處右カ果シテ「テ」號ヨリ莫
斯科宛ノ電信ニ依ルモノナルニ於テハ隱密ニ我方無電法規ノ違反ヲ
敢テ致シ居ルモノナルニ付今後ノ證據トシテ莫斯科當局カ「テ」號
ヨリノ無電接受ノ日附並ニ接受ノ經過等確答ヲ得置クコト我方ノ立
場ヲ有利ナラシムヘントモ存スルニ付右先方ノ注意ヲ惹カサル様夫

外務省

レトナク御問合ノ上御回電相煩度シ

外務省

F-0125

0307

電信寫

略部口 一六九二六 平 莫斯科 四日後發 情。歐
本省 九月四日夜着

有田外務大臣 酒匂代理大使

第六六二號

三日各紙ハ三十日浦潮渡「タス」トシテ左ノ通り報道セリ

「テレタ」號ハ引續キ抑留中ナルカ監海當局ハ取調ノ終了セサルヲ
理由トシテ「クラウゼ」總領事ニ乗組員トノ面會ヲ許サス又船内ノ
食糧及用水缺乏セルニモ拘ラス之カ補給ヲ許ササル爲病人讀出シ居
レリ右ニ關シ在京蘇聯大使館ハ外務省ニ對シ「ク」ノ面會許可ヲ求
ムルト共ニ船員ニ對スル虐待ニ付抗議スル所アリタリ（了）

大臣
次官

電信課長

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文部 調查 人事 會計 秘書官

寫送先

船舶法違反及係保案件

昭和11 一六九三〇 略

浦潮 四日後發
本省 九月四日夜着

情、歐

有田外務大臣

杉下總領事

第一二七號

四日當地新聞ハ日本官憲ハ蘇聯邦船「テイレク」號釋放交渉ノ爲臺
北ニ赴キタル在神戸蘇聯總領事ニ對シ船長及乗組員トノ會見ヲ許サ
サルノミナラス缺乏セル食料、清水ノ補給スラ許ササル結果罹病者
アリ又警察官ハ乗組員ニ對シ暴行ヲ加ヘ居ル旨「タス」報トシテ報
セリ
露へ郵報セリ

外務省

大臣
次官

電信課長

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文部 調查 人事 會計 秘書官

寫送先

昭和11 一六九二六 平

莫斯科 四日後發
本省 九月四日夜着

9.5 情、歐

有田外務大臣

酒匂代理大使

第六六二號

三日各紙ハ三十日浦潮發「タス」トシテ左ノ通り報道セリ
「テレク」號ハ引續キ抑留中ナルカ臺灣當局ハ取調ノ終了セサルヲ
理由トシテ「クラウゼ」總領事ニ乗組員トノ面會ヲ許サス又船内ノ
食糧及用水缺乏セルニモ拘ラス之カ補給ヲ許ササル爲病人續出シ居
レリ右ニ關シ在京蘇聯大使館ハ外務省ニ對シ「ク」ノ面會許可ヲ求
ムルト共ニ船員ニ對スル虐待ニ付抗議スル所アリタリ(了)

外務省

F-0125

0309

分類7類6項8目 9-2)

| | | | | | |
|-------------|------|----------------------|--------|--------------------|-----------------|
| 電 信 案 | 電送第 | 13589 | 號 | 主 管 | 歐亞局長 |
| | 昭和 | 11年9月5日 | 午後5時7分 | 任 | 主 第一課長 |
| 外 務 省 | 件 | テレックス号ノ無電通化 ニ関スル件 | 宛 | 台湾總督府 坂本外事課長 | 發 |
| | 名件録記 | 船舶法違反関係雜 件 | | 加藤 亞司 有田 大 臣 | 昭和十一年九月五日 起草 |
| | 第 | 一 | 三 | 號 | |
| | 往電第 | 三〇号 | 同 | | |

電信課長
電信課發電係
全寫五連

來訪 陸水運人民委員部カテラキ身ヨリ
 揚子江ノテレックス通化ニ依ルテ本カテラキ
 以向長ニ於テ再通化法規違反ノ懸念アリ
 ソレトシテ水運
 課長在任小南委員部ニ於テ面接テ号ヨリ無
 電通化ヲ受ケタル相違ナキト念ヲ押シタ
 同参事亦ハ右ニ相違ナク水運人民委員部
 ハ諸方ニ方面ノソウイニ上船舶ト專接通化

(原議用紙乙)

F-0125

03:10

又ハ受ケツ、印ト
此の如クニ就テ、何等申込入リテ候ナリ
(原議用紙乙)

得
~~其後往電第一ノ事~~

其方ハ申入レ申ニモ莫斯科科書局カテ呈示

榮取ル通付ニ依ルハ去キト述ヤ本五回ソレ

トナクソ大使館書書記有ニ尋テ未見タル

又大使館側ハ莫斯科科ヨリノ訓電ニ述ヘ凡

通リヲ外務省ヘ申入レタルモノニテ莫斯科科也

向ノ無電接及ノ日附並ニ其ノ経路等

電信案
外務省

(原議用紙乙)

ハ何等記載シテ申入付不明ナリト答ヘテ

本件先方ニテ敬言成ル候也ニ付余ノ事不

知レ此程及ニ語リ止メ置キテ

取敢

電信案
外務省

F-0125

03:11

電信課長

大臣

次官

東亞 歐洲 米商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 祕書官

寫送先

昭和11 一七二一六 暗

臺北 九日後發
本省 九月九日夜着

9.12

歐

有田外務大臣

坂本臺灣外事課長

第三一號

瀨歐亞一課長へ左ノ通

「クラウゼ」ヨリ高雄ニ於テ取調ヲ受ケツツアル船長病氣ノ趣通報
アリタルニ付取調ヘラレ度キ旨要求アリ依テ取調ヘタル處
船長ハ客月二十九日咽。喉。ニ微痛ヲ訴ヘタルニ依リ同市分。島。醫師ヲシ
テ診療セシメタルニ扁桃腺腫脹ニテ此ノ方ハ既ニ全快セルモノ、三
日前胃腸傷害ヲ訴ヘ來レルモ左シタルコトニアラス右ハ上陸以來食
物ノ變リタル結果ナルヘク目下大事ヲ取りテ「テ」號ヨリ「スー」

外務省

ヲ運ヒ取ラシムル等用心セシメアリテ健康ハ何等憂慮スヘキモノナ
シ以上ハ當地滞在中ノ「ク」總領事へ通報シ置キタリ
尙船長ハ取調ニ際シ供述ヲ翻ス等ノ態度ニテ誠意ナク從テ取調モ亦
意外ニ手間取り居ル由ナリ（了）

外務省

F-0125

03 12

船長ノ宿泊地、食事、健康、乗組員ノ所在地、
 船中ノ指揮者、食料、健康状態等ニ関シ回答
 セリ

三、船長ヲ拘束セズ日本旅館ニ宿泊セシメ必要ニ依リ
台湾官憲ハ好意約措並トシテ

船中ヨリ食事ヲ取寄セシメマツ、アリ

四、九月二日在京ソソ聯邦大使館ヨリテ、号ニ食

料供給方申出タルニ付取調一ツル處九月三日

現在ニ放テハ所持金七百六十圓、食料、主副

外務省

食物共十日分アリ、飲料水、（七）現有セリ、且ツ雨
 水貯蓄設備モ考セシ、（四）石炭百五十屯ヲ有スル
 コト判明シ之ヲクラウゼニ通報シ又クラウゼヨリ傳

達方依頼アリタルニ三月月ハ送金方取計協ナリ

五、九月九日クラウゼヨリ坂本課長ニ対シ船長ノ罹

病取調方依頼アリタルヨリ同課長ハケニ容

体、病名、現在健康ハ等々心配スヘキモノニアラザ

ル旨通報シ当省ヨリテイキマンニ総領事ハ通切セリ

外務省

F-0125

03:15

九月十一日 拓務省より電話

台湾より通報に依りハフテレ号ハ十日午後

四三〇船舶法違反等起訴せられたり

ソレ大使館ニ通報する

外務省

F-0125

03 15

電信寫

昭和11 一七四四一 略

莫斯科 十一日午後
本省 九月十二日前着

歐

有田外務大臣

酒匂代理大使

第六七八號

往電第六三一號ニ關シ

十日漁業問題ニテ會談ノ際「カズ」ハ「テレック」號問題ニ言及シ
右ニ付「リトヴィノフ」始メ蘇側ニ於テ痛ク憤慨シ右國滿解決方ヲ
督促シ居ル有様ニテ同事件ト云ヒ在滿官意ノ對蘇不當措置ト云ヒ自
分ノ立場頗ル困難ナルカ斯克テハ漁業問題等ニ付政府竝ニ上司へ報
告スル上ニモ甚タ便宜ナラスト思考スルニ付急速解放方特ニ斡旋ア
リ度キ旨懇々依頼セリ尙重工業人民委員部ヨリ左近司社長ニ對シテ
モ續ニ同様ノ申出アリタル趣ナリ（了）

F-0125

03 17

電信課長

大臣
次官

東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文化
調査
人事
文書
會計
秘書官

寫
送
先

昭和11年9月2日

昭和11 一七四八二 平

臺北 九月十二日後着

9.15 歐

加瀬歐亞局第一課長

坂本臺灣外事課長

第三四號

「テ」號事件ハ一昨日豫審終結船舶法違反事件トシテ起訴ニ決定
臺灣地方法院高雄支部單獨部ノ公判（期日未定）ニ附サルルコトト
ナリタリ

當地滯在中ノ「クラウゼ」十日夜發南下昨日當方官憲立會ノ下ニ「
テ」號ニ到リ船長ト面接シタリ公判ノ結果等ハ後報ス（了）

外
務
省

F-0125

03:18

寫

八月十一日

英領事館

(前略) 次ニ辯護士向題ヲスガ只今武井辯護士ノ下ニ
赴キ種々相談シテ結果免ニ角希望スルヲ引受
ケル事アリシノガ不取明朝(土曜朝)船長署
名ヲ貫テ辯護届ヲ出ストニナリマシテ、方領事ハ今
晚大使宛打電シテ辯護士ノ件(費用二千圓)許
スルヲ受テ上デ明晚正式ニ依頼スル形式ヲ取ントノ約
ヲ打切リシ(省略)

八月十二日

船長及武井辯護士面談ノ件

本朝武井辯護士宛船長署名ノ辯護届ヲ提出スル
メ武井氏ハ直チニ裁判所ニ赴キ調書字ヲ作製之ニ

臺灣總督府

基ヲ研究スル所アリ

午後六時船長、總領事ハ武井氏ヲ訪向、
先ツ武井氏ハ船長ニ対シ調書ヲ研究セモ船長ニ有
利ナル莫少ク自分ガ本件ノ辯護ニ至ラズモ豫期スル如
キ好果ヲ得んストハ困難ナル旨ヲ答ヘ總領事モ免ニ角
辯護ニ至ラズトテ希望シ正式ニ引受ケル形式トナシ
武井氏ハ船長ニ対シ種々調査書ノ細カキ莫ニ至ル迄
質問スルモ船長ノ返答ハ全ク調査書ニ記載スル所
ト同一ニシテ何等變化無ク船長モ日本ノ法律ニ反シテ
不港入港シテ莫シテ認メ高雄法院ニ於テ適當ナ
ル判決ノアリ次第之ニ服從直チニ出港セントスル希望
ヲ陳述セリ

猶明朝九時再ビ船長及武井氏ハ面談ヲ續クル豫定

F-0125

0328

英法全權譯稿

總領事ホビレフ氏ハ九時ヨリ船長ト共ニテレエウ号
ニ赴キ夕食ヲ共ニシテ十時頃ホビレフ氏ニ帰還

十三日

船長又辯護士面談ノ件

昨夜ノ会見ニ充分ナル為メ本朝再ビ船長ハ
ホビレフ氏ト共ニ武井氏ノ許ニ赴キ本件ノ細末ニ
懇話武井氏ハ本件引受クルモ辯護スル莫ク
出来得ハ引受ケテ拒絶シタキ意向ヲ洩シタリ然レ
總領事ノ希望ニ依リ引受ケ明日辯護料ニ
圓ヲ手交スル事トシテ辭去

船員ノ上陸許可ニ関スル件

臺灣總督府

フテエウ号高雄ニ廻航サレシ當時ヨリ船員ハ全然上
陸ヲ禁セラレ今ニ至ルモ夫ノ状態ニ非常ニ不便ヲ
感ジテ居ルトノ事ニシテ總領事ヨリ何トカ上陸出来ル
様ニ交渉シテ世貫ヒ度イトノ意向ナル為メ警察署長
又憲兵隊ト打合せノ結果全然禁止スル何等ノ理由無
キ為メ條件ヲ附シテ上陸ヲ許可スル方針ヲ定メ船長ニ
其ノ旨傳タル為メ極メテ満足セシモノ也而シテ其ノ
條件モ比較的簡單ナモノニシテ一般外人ニ對スル殆
ト同ニシテ高雄市内一般ノフテエウ号ノ事件ニ對スル
關心ハ蘭船事件ノ當時ヲ想ハスモノアル為メ上陸
船員ノ保護ニ付テハ全然手ヲ落無キ様特ニ敬言察方
面ノ努メヲ望ミ置ケリ

F-0125

0321

現地派遣、船長ト、面會、事件ノ迅速ニ處理、船員、對スル
 飲食料供給、船長以下ノ健康状態ニ注意等ノ大要
 望ヲ台湾總督府ニ報告スル、電報ニ又台湾總督府ヨリ、回電
 、「概シヨリ其ノ部及處理、トシテ、便依、例ニ通報セリルカ地
 方台湾總督府ニ報告スル、此等ニ「クラウセ」總領事ニ對シ總督
 トノ面會、「テレツク」詳細ニ因テ通報、病人ニ對スル醫治
 手為等種々ノ便宜ヲ供與シ居ル以テ、尤、有、直、手
 在ル船舶ノ釋放要求スル、船員ノ食糧欠乏、我官室ニ依ル
 外務省

虐待ニ因テ、シ、例、申、入 確證ノ如キハ、何レモ不為若クハ根拠無キニテ、
 此ノ莫ク、既ニ「シ」大使館側ニ通報セルト「ロ」ナリ、本件ハ既ニ「ク
 ラウセ」總領事ニ台湾總督府ヨリ通報セル通リ、報 通報セル通リ、シ、例、申、入
 有取調結果十日餘高橋結船法違反事件トシテ起訴
 決定ニ台湾地方法院高雄支那單獨部ノ公判(期日未
 定)ニ附スル、シ、例、申、入 總領事一行ハ高雄ニ赴キ、
 外務省ハ「シ」縣知政官カ本件ニ因テ、シ、例、申、入 許ス範圍ニ於テ
 採ル外務省及台湾總督府高橋ノ好意的措施ニ拘ハス
 外務省

F-0125

0323

ン例ノ苦情乃至要望カ全然無效果ニ終レリト主張セ而カモ
 事態、レテ根本的ニ変化セタルニホテハ、ソレ領内ニ於テ同様ノ
 状況、在ル日本船舶ニ對シ同様ノ態度ヲ採ラントストノ豫
 トスル又ナリ
 告ラセシムル甚ク不可解ノ不愉快トナルトモ、ソレニ對シ、
 商、航海ノ内、萬一、運送ヲ希クハ、本島ノ見地ヲ、ソレ政府ノ
 深甚ナル再考ヲ希望スル次第ナリ

外務省

F-0125

0324

ствием и обращении внимания на состояние здоровья капитана и команды. С другой стороны и подлежащие власти Формозского Генерал-Губернаторства оказывали всякие содействия, как то в свидании Генерального Консула г.Краузе с Генерал-Губернатором, сообщении ему сведений о положении парохода "Телек", медицинской помощи больным и т.п. Кроме того, относительно представления советской стороны по поводу недостачи продовольствия судовой команды и грубого обращения наших властей с судовой командой, вследствие обследования все оказалось, что или несправедливо или лишено всякого основания, о чем уже сообщено стороне Советского Посольства.

По поводу настоящего дела, как уже сообщено подлежащими властями Формозского Генерал-Губернаторства Генеральному Консулу г.Краузе, 10-го сентября предварительное следствие было закончено, решено пред, явить обвинение, как дело нарушения законов о судах, и будет подвергнуто открытому суду /день суда неопределен/ Отделения Такао Формозского окружного суда и по-этому партия Генерального Консула г. Краузе отправилась в Такао.

Министерство Иностранных Дел считает крайне непонятным, что Советское Правительство, не смотря на доброжелательные меры, принятые по-этому делу, поскольку позволяют законы, подлежащими властями Министерства Иностранных Дел и Формозского Генерального Губернаторства, настаивает на том, что претензии и требования советской стороны остались совершенно безрезультатными, и предупреждает, что в случае, если положение этого дела вконец не будет изменено, на

японские суда, находящиеся в советских территориальных водах в одинаковом положении с пароходом "Телек", будут применены одинаковые приемы.

電 信 案

之能キ事能ク在リトモ、此大任任リ、要清、善レ、ク、
 此此公事ノ現地派遣、船長トノ命令、事件ノ迅速處理、船
 長ニ對シテ、命令料、供給、船長以下ノ健康状態、注意等ノ
 大任任、要清ニ付テハ、事能ク、許ス、限リ、事、力、カ、ン、ニ、
 之、其、高、船、員、ノ、食、糧、欠、乏、此、外、其、他、之、任、務、等、ノ、周、知、
 申入、ノ、取、柄、ノ、結果、何レ、モ、不、為、差、ハ、飛、據、キ、キ、ト、判、明、
 件、ハ、十、日、強、富、此、法、船、助、法、違、互、事、件、ト、シ、テ、起、訴、
 外 務 省

電 信 案

定、ト、近、口、公、判、ニ、附、キ、ト、ナ、レ、リ、外、務、省、ノ、政、府、カ、キ、件、
 之、内、心、情、判、断、ノ、許、ス、範圍、ニ、於、テ、採、ル、ル、外、務、省、及、台、灣、領、事、
 局、ノ、如、意、ノ、採、取、ノ、拘、ル、ル、事、件、ノ、苦、情、乃、至、要、望、カ、全、
 然、無、効、果、ニ、終、レ、リ、ト、主、張、モ、カ、モ、ン、政、府、ノ、於、テ、此、方、
 之、報、復、的、手、取、ヲ、取、ル、レ、ト、ス、ト、強、者、ハ、た、ラ、不、可、解、ト、ス、
 ル、日、田、赤、セ、レ、キ、
 外 務 省

F-0125

0328